

機関リポジトリとさまざまな 利害関係者

国立情報学研究所

開発・事業部コンテンツ課

尾城 孝一 (ojiro@nii.ac.jp)



機関リポジトリとは何か

機関リポジトリとは

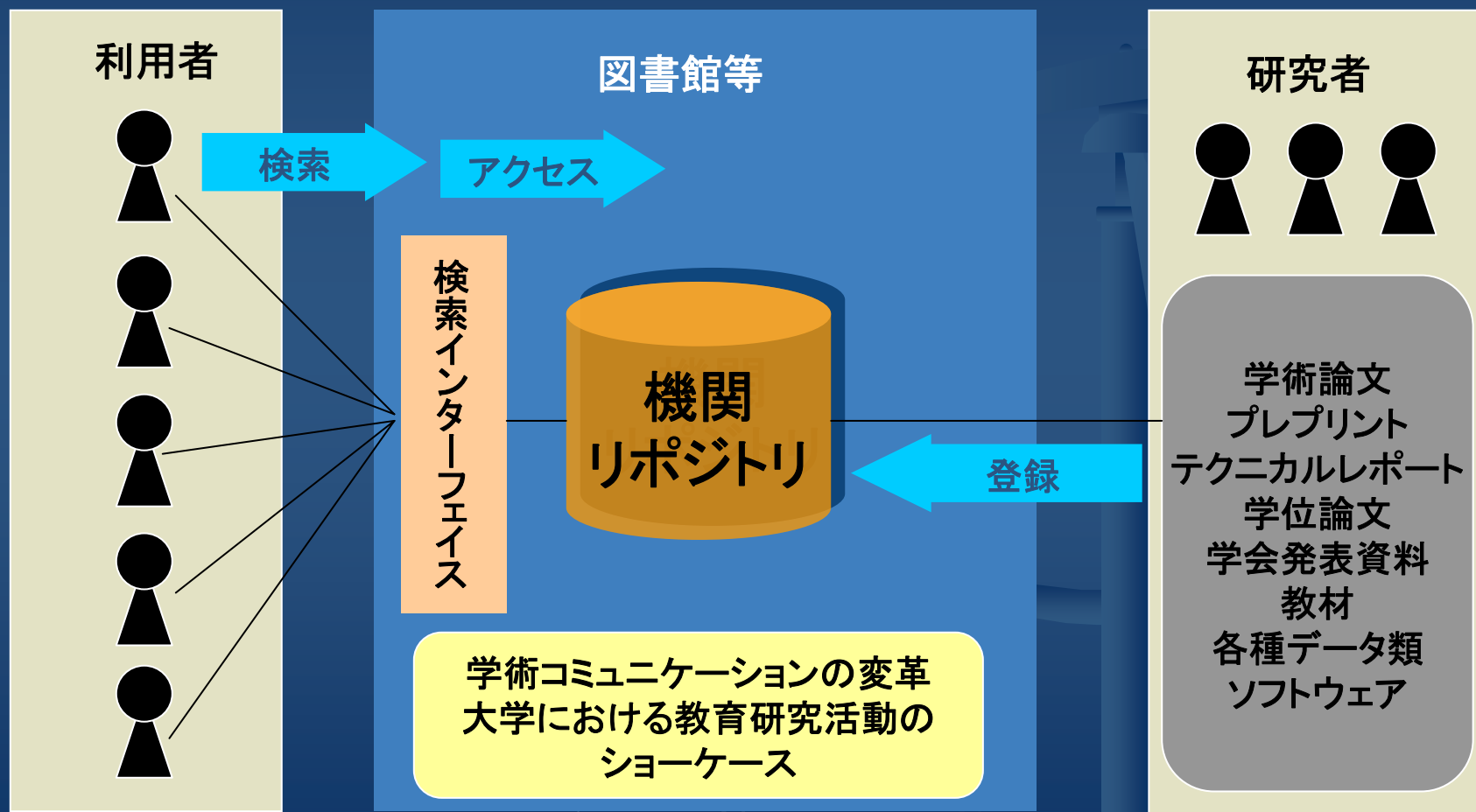
- 「単独あるいは複数の大学コミュニティの知的生産物を収集して保存するデジタルコレクション」

(Crow, R. The Case for Institutional Repositories: A SPARC Position Paper. 2002.)

- 「大学とその構成員によって作成されるデジタル資料の管理および配布のために、大学がその構成員に提供する一連のサービス」

(Lynch, C.A. Institutional Repositories. *ARL Bimonthly Report* . 226. 2003.)

機関リポジトリの概念図



機関リポジトリの現状



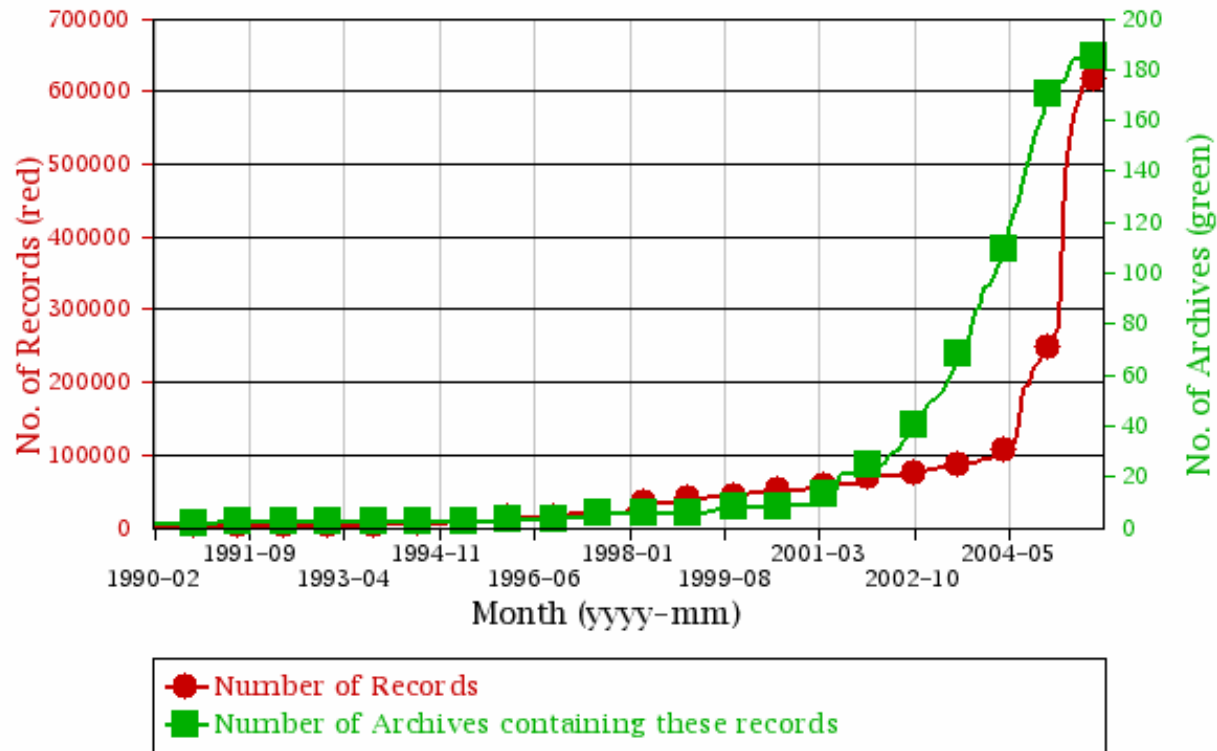
世界のリポジトリ

- Institutional Archives Registry (Eprints.org)
 - <http://archives.eprints.org/>
 - 468リポジトリ(2005.10.5現在)
- 各国の設置状況
 - 米国(127), 英国(55), ドイツ(41), ブラジル(29), カナダ(27), フランス(24), オーストラリア(18), オランダ(16)...

機関リポジトリの普及

Growth of Institutional Archives and Contents

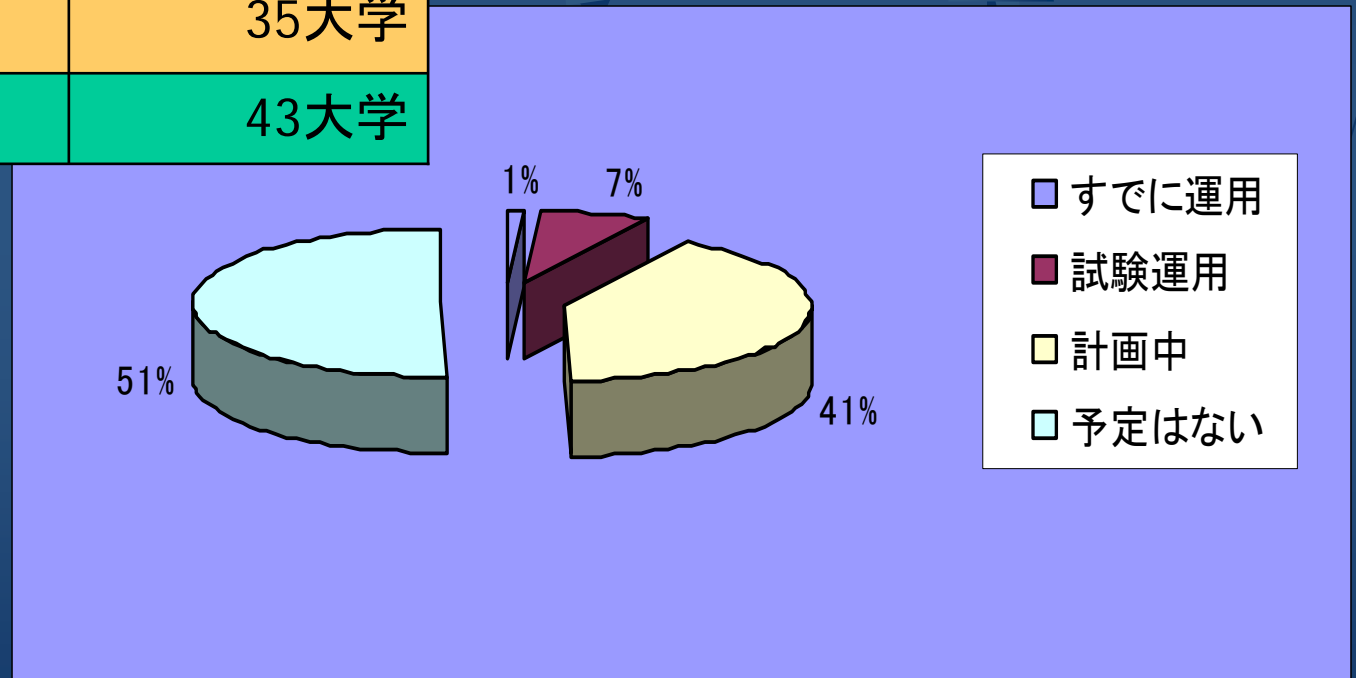
Generated by <http://archives.eprints.org/>



【研究機関のリポジトリに限定】

日本の状況

すでに運用	1大学
試験運用	6大学
計画中	35大学
予定なし	43大学



国立大学図書館協会学術情報委員会デジタルコンテンツプロジェクトによる調査(2005.1)



大学(図書館)にとっての 機関リポジトリ

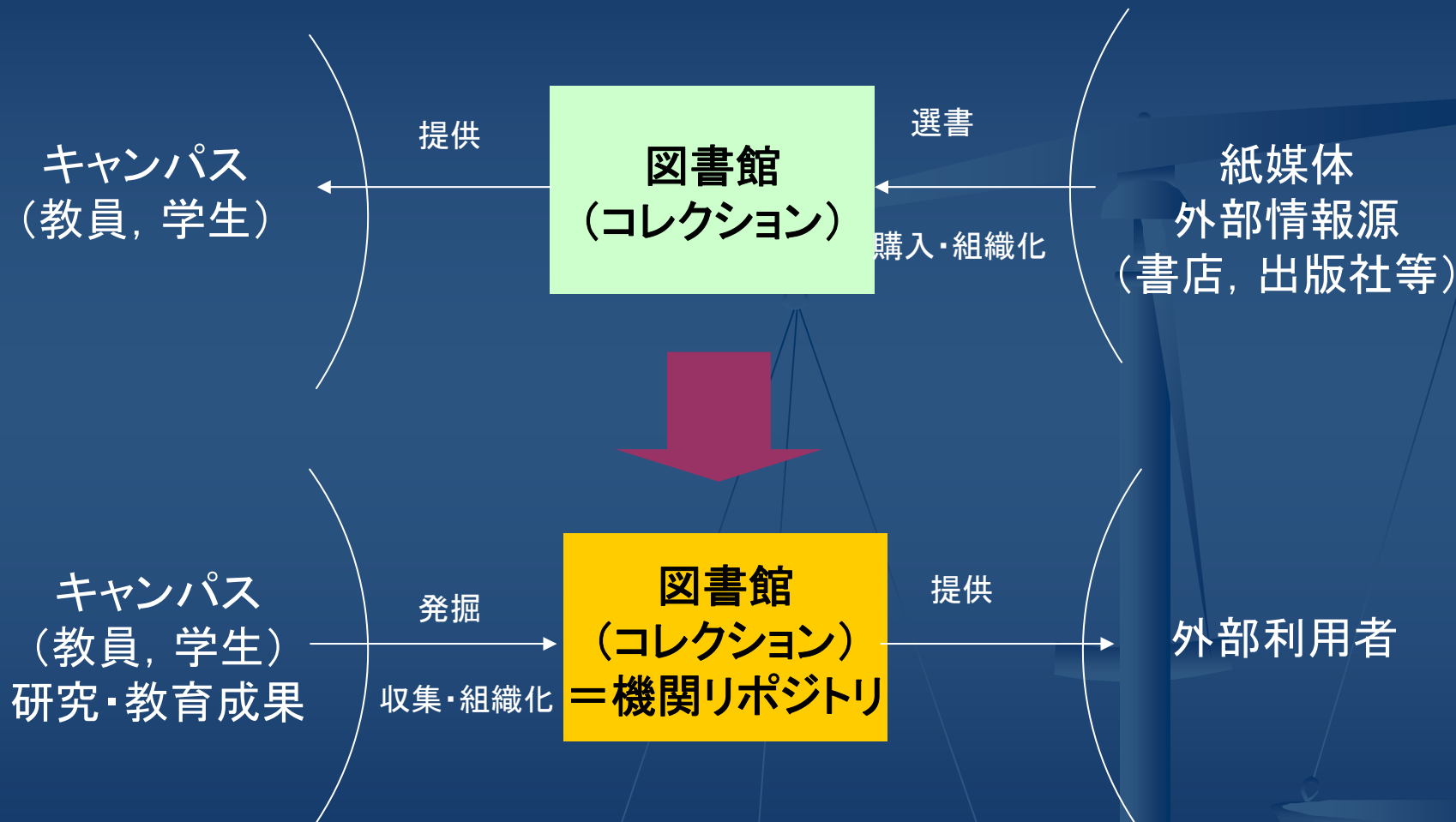
大学にとっての機関リポジトリ

- 教育研究活動のショーケース
 - 学内で生産された学術情報（教育・研究成果）の一元的な管理，発信，保存
- 社会に対する説明責任の履行
- 教育研究機関としての知名度（評価）の向上

図書館が主体的に担うべき理由

- 従来の図書館機能の延長(学術情報の収集, 組織化(メタデータ, 主題分析), 利用提供, 保存)
- 著作権及び学術コミュニケーションをめぐる諸問題に関する専門家
- 技術的なノウハウの蓄積
- 図書館コレクションの新たな形

コレクションの変化





研究者にとっての機関リポジトリ

学術雑誌の危機

- 学術雑誌の危機 (vicious cycle)
 - 価格の高騰 > 大学の購買力 → 購読中止 → 購読部数の減少 → 更なる価格の高騰
- 研究者にとっての問題
 - (読み手) アクセス障害
 - (書き手) リサーチ・インパクトの低下
- 解決策としての機関リポジトリ
 - 学術論文のセルフアーカイブ先としての機関リポジトリ
 - オープンアクセス

セルフアーカイビング

- 著者が、プレプリント(査読前論文) and/or ポストプリント(査読後論文)を個人サーバ, 分野別サーバ, あるいは大学(図書館)が運営するサーバに蓄積し, それを無償で公開する行為
- 分野別
 - eプリント・アーカイブ (e.g. arXiv.org)
- 大学・研究機関別
 - 機関リポジトリ



Stevan Harnad = Guru of Self-Archiving

セルフアーカイビングと著者

- Swan, Alma ; Brown, Sheridan. Open access self-archiving: An author study. 2005.5
 - <http://eprints.ecs.soton.ac.uk/10999/01/jisc2.pdf>



Dr Alma Swan

Executive summary

- 回答者1,296名
- 約半数がセルフアーカイビングの経験者(半数は未経験者)
- 36%がセルフアーカイビングを通じたオープンアクセスの可能性を認識していない
- 20%がはじめてセルフアーカイビングする際に困難を覚えている
- セルフアーカイビングに関する著者の懸念として、著作権の問題を挙げることができる
- 72%が学術論文を探すために、Googleを使っている
- 81%が雇用者または助成金提供機関に強要された場合、進んでセルフアーカイブする(さらに13%がやむを得ず応じる)

(大学図書館にとっての)教訓

- 更なるアドボカシィ, 報知活動が必要
- できるだけ登録の敷居を低くする
 - 既存の業績DB等のデータの活用・連携
 - 図書館員による代理登録
- セルフアーカイビングを容認している雑誌, 出版社の周知
 - 海外分は既にDB化 [<http://romeo.eprints.org/>]
 - 国内学会は？
- 登録された成果をGoogleからも検索できるようにする
- できれば, 大学として義務
[<http://www.eprints.org/openaccess/policysignup/>]



機関リポジトリと学会

学術雑誌 vs 機関リポジトリ

- 競合か共存か？
- 「[機関リポジトリ]の目的は、現在の雑誌システムを破壊することではなく、それが学術機関や図書館に与える独占的な影響を弱めることにある」

(Crow, R. The Case for Institutional Repositories: A SPARC Position Paper. 2002.)

学術雑誌と機関リポジトリの相互補完

学術雑誌

登録

品質保証

報知

保存

機関リポジトリ

登録

報知

保存



オーバーレイジャーナル(共存の一例)

- オーバーレイジャーナルとは
 - ひとつあるいはそれ以上のリポジトリに収録されている論文や研究報告を指し示す第三者のオンライン・ジャーナル
- 季刊『公共研究』(千葉大学21世紀COEプログラム「持続可能な福祉社会の実現に向けた公共研究拠点」)
 - 千葉大学学術成果リポジトリを本文ファイルの収容場所とするオンライン・ジャーナル

季刊「公共研究」 第1巻 第1号 2004年12月

[公共研究創刊を祝う\(磯野可一\)](#)[「公共研究」創刊にあたって\(広井良典\)](#)■特集/21世紀COEプログラム 公共研究センター
「持続可能な福祉社会に向けた公共研究拠点」

開会挨拶

[COE研究への期待\(三浦佑之\)](#)

基調報告

[持続可能な福祉社会\(定常型社会\)の構想\(広井良典\)](#)

基調報告

[公共哲学とは何か\(山脇直司\)](#)

公共政策セクション報告

[哲学的背景と市民参加をふまえた政策提言\(島治郎\)](#)

国際公共比較セクション報告

[歴史的パースペクティヴのなかの公共研究\(三浦佑之\)](#)

公共哲学セクション報告

[学問改革への挑戦—友愛公共世界形成のために\(山脇直司\)](#)

パネルディスカッション

[公共研究が拓く可能性について\(山脇直司、島治郎\)](#)

■研究ノート

[EUの公共機関における環境マネジメントシステム\(三浦佑之\)](#)

■書評

[「グローバル化と公共哲学」に際して\(山脇直司\)](#)

千葉大学リポジトリの本文PDF

la Firefox

特集/持続可能な福祉社会に向けた公共研究拠点

【基調報告——1】

持続可能な福祉社会(定常型社会)の構想

——福祉政策と環境政策の統合と新たな社会モデル

千葉大学法経学部教授

広井 良典

はじめに

ご紹介いただきました広井でございます。他の方がネクタイ背広で来られている中を、日曜日ということもあってこんな格好で来て、さきほど「公共的市民らしい」と言われました。

私が一応拠点リーダーになっておりますけれども、実際は小林先生、倉阪先生、雨宮先生はじめ強力なメンバーに囲まれて、研究メンバーの一人という感じでやっております。どうぞよろしく願いいたします。

この後、山脇先生が「公共哲学」そのものについて内容的なお話をされます。

出版社のポリシー

	雑誌数	%	出版社数	%
	8,603	(100%)	120	(100%)
公式には認めない	746	9%	35	29%
プレプリントのみ認める	1,943	+22%(=91%)	10	+8%(=71%)
ポストプリントを認める	5,914	69%	75	63%

<http://romeo.eprints.org/>による(2005.10.5現在)

出版社版と著者版

- 出版社版 (Publisher's Official Version)
 - 出版社のEJのサイトに掲載された正式な電子論文ファイル
- 著者版 (Author's Final Version)
 - 著者の手元にある査読後の原稿
- グリーン誌の大多数は、著者版のみのセルフアーカイビングを認めている
- Elsevierのポリシー
 - What rights do I retain as author?
“the right to post a revised personal version of the text of the final article (to reflect changes made in the peer review and editing process) on the author's personal or institutional web site or server, with a link to the journal home page ...”

一覧(ブラウジング)

→ 登録日 > 200502 (19)

④ 資源タイプ

④ 作成者

→ 登録日

Colorization algorithm using

キーワード等 : colorization ; p

内容 : This paper presents a m...
 Since the colorization is an ill-p...
 information in this paper. Then...
 assuming local Markov property...
 considered as a combinatorial o...
 algorithm works very well when

URL : <http://mitizane.ll.chiba-u>

掲載誌情報 : Image and vision

言語 : 英語

関連情報 (hasVersion) : <http>

登録日 : 2005.02.16

更新日 : 2005.03.09

千葉大学附属図書館: 〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1
 TEL: 043-290-2253
 © 2004 Chiba University Library. All Rights Reserved.
 完了



SCIENCE @ DIRECT

 Register or Login: Password: Athens/Institution Login

[Home](#) [Journals](#) [Books](#) [Abstract Databases](#) [My Profile](#) [Alerts](#)

Help

Quick Search: within [Search Tips](#)WELCOME GUEST USER [Info](#)**Image and Vision Computing**

Volume 22, Issue 3, 1 March 2004, Pages 197-202

 doi:10.1016/j.imavis.2003.08.004 [Cite or Link Using DOI](#)
 Copyright © 2003 Elsevier B.V. All rights reserved.
Colorization algorithm using probabilistic relaxationTakahiko Horiuchi  

Department of Information and Image Sciences, Faculty of Engineering, Chiba University, 1-33, Yayoi-cho, Inage-ku, Chiba 263-8522, Japan

Revised 1 August 2003. Available online 8 October 2003.

Abstract

This paper presents a method of colorizing a black and white imagery based on the probabilistic relaxation algorithm. Since the colorization is an ill-posed problem, a user specifies a suitable color on each isolated pixel of an image as prior information in this paper. Then other pixels in the image are colorized automatically. The colorizing process is done by assuming local Markov property on the images. By minimizing a total of RGB pixel-wise differences, the problem can be considered as a combinatorial optimization problem and it is solved by using the probabilistic relaxation. The proposed algorithm works very well when a few percent color pixels are known with confidence.

www.sciencedirect.com に接続しています...

This Document▶ **Abstract**

- Full Text + Links
- PDF (416 K)

Actions

- E-mail Article

学会にとっての脅威か？

- 「機関リポジトリや検索エンジンによって研究論文が無料でアクセスできるようになるならば、学術雑誌に悲惨な帰結をもたらし、結果として財政的にうまくいかなくなり品質管理と査読プロセスの崩壊へとつながる」

(Association of Learned and Professional Society Publishers. ALPSP response to RCUK's proposed position statement on access to research outputs. 2005)

ポリシーの比較

	営利出版社		非営利出版社 (学会, 大学出版局)	
	雑誌数	%	雑誌数	%
公式には認めない	474	6%	272	20%
プレプリントのみ認める	1,654	+23%(=94%)	289	+21%(=80%)
ポストプリントを認める	5,100	71%	814	59%

<http://romeo.eprints.org/>による(2005.10.5現在)

arXiv.orgに対するAPS,IOPの反応

- arXiv.org
 - 物理学系の代表的eプリントアーカイブ(電子論文サーバ)
 - 物理学論文=約120,000/年
 - arXiv登録論文=約40,000/年
- 購読数は減少したか？
 - 否
- arXivは脅威か？
 - 否(今後も共生していきたい)

(Alma Swanのインタビューに対する回答より)

国立情報学研究所の役割

- 機関リポジトリの構築・連携の支援
 - 大学(図書館)との共同事業
- 機関リポジトリをめぐるさまざまな利害関係者間の調整
 - 研究者, 大学図書館, 学会, 出版社